

The background of the entire image is a photograph of a vast, calm ocean under a clear blue sky. The horizon is visible in the distance.

Edition Another View

自己理解

Raffiné

人は自分を理解したいと思いながら、
本当は、
これ以上迷わなくて済む場所を探している。

価値観とは答えてではなく、
引き返せなかった選択の痕跡として、
内側に沈んでいる。

自己理解とは、
性格診断の結果でもなければ、

「私はこういう人です」
と言い切るための言葉でもない。

強みや弱みを整理することでも、
過去を合理的に説明することでもない。

それらはすべて、
すでに通過した航路を
あとから整頓する作業にすぎない。

本質的な自己理解は、
整った地図の中には存在しない。

人は、理解したつもりになることで安心する。

けれど、その安心はしばしば、
まだ見たくない搖らぎを覆い隠す。

価値観とは、選択の積み重ねによって
いつの間にか形成された、内側の航路である。

何を選び、何を選ばなかったのか。
どの言葉に頷き、どの違和感を無視できなかったのか。

その一つひとつが、
自覚されないまま舵の角度を決めてきた。

自己理解とは、
その航路を「正解だった」
と確認することではない。

むしろ、
なぜその方向へ進まずにはいられなかつたのか、
という理由に触れることだ。

理由は、論理よりも先に、
感覚として存在している。

説明できなかつた選択、
周囲に理解されなかつた決断、
それでも引き返せなかつた瞬間。
そこに、価値観の核が沈んでいる。

自己理解が深まると、
人は確信を持つようになるわけではない。

むしろ、迷い方が変わる。

以前よりも、
立ち止まる場所が静かになり、
選び直す速度が遅くなる。

その代わり、
自分の内側で何が起きているのかを
置き去りにしなくなる。

価値観の航路は、固定された地図ではない。

自己理解が進むほど、
その航路は揺らぎを含んだまま、
より正直な線を描きはじめる。

迷いと理解は、対立しない。

理解とは、
迷いを抱えたまま進めるようになることでもある。



わかっていない自分を
切り捨てなくなったとき、
航路は、静かにひらかれる。

R.

Edition — 價値観の航路
別景：自己理解

著者：美学思想家 古川玲奈
発行：Raffiné
2026